令和４年度　沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部　観光政策課
令和５年４月発表

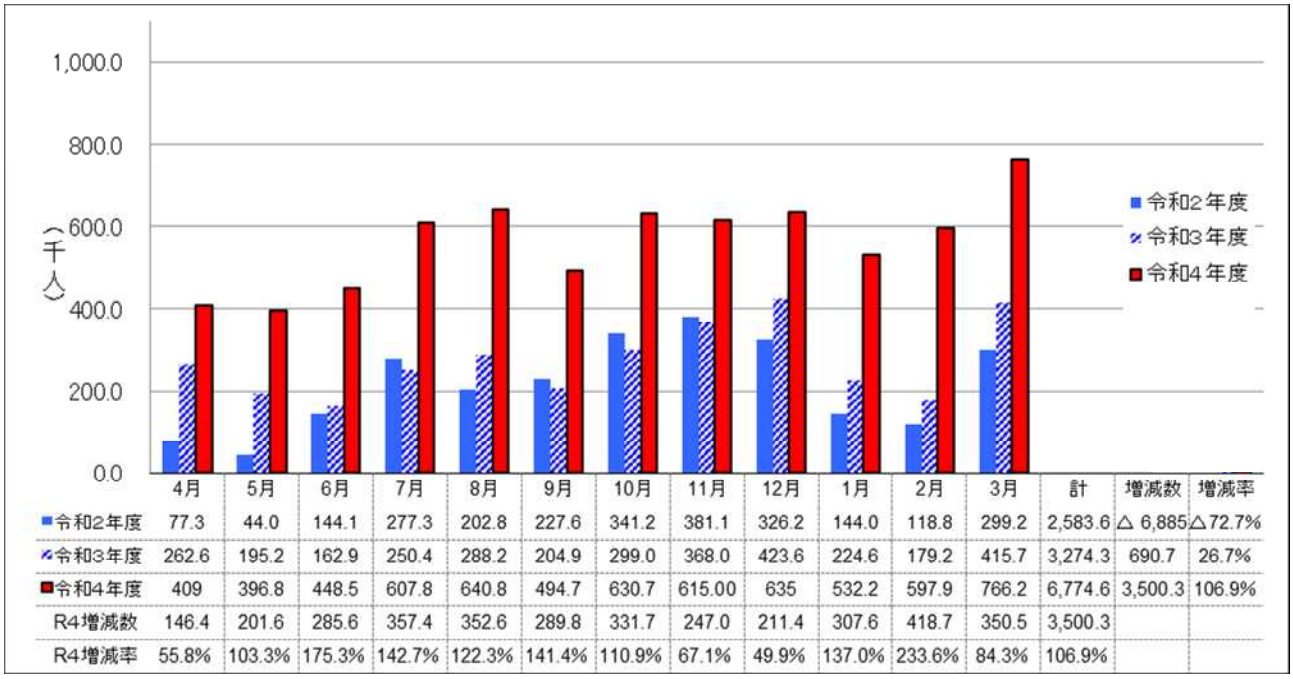
令和４年度の観光客数は、<u>677 万 4,600 人</u>

対前年度（R3）比　+350 万 300 人、+106.9%

～増加数・増加率は過去最高～

※過去最高年度（H30）比　-322 万 9,700 人、-32.3%

■月別入域観光客数の推移（令和２年度～令和４年度）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	増減数	増減率
令和2年度	77.3	44.0	144.1	277.3	202.8	227.6	341.2	381.1	326.2	144.0	118.8	299.2	2,583.6	△ 6,885	△72.7%
令和3年度	262.6	195.2	162.9	250.4	288.2	204.9	299.0	368.0	423.6	224.6	179.2	415.7	3,274.3	690.7	26.7%
令和4年度	409	396.8	448.5	607.8	640.8	494.7	630.7	615.00	635	532.2	597.9	766.2	6,774.6	3,500.3	106.9%
R4増減数	146.4	201.6	285.6	357.4	352.6	289.8	331.7	247.0	211.4	307.6	418.7	350.5	3,500.3		
R4増減率	55.8%	103.3%	175.3%	142.7%	122.3%	141.4%	110.9%	67.1%	49.9%	137.0%	233.6%	84.3%	106.9%		

■令和４年度の概況（総括）

令和４年度の入域観光客数は 677 万 4,600 人で、対前年度比で 350 万 300 人、率にして 106.9%と過去最高の増加となった。これまで最多の 1,000 万 4,300 人を記録した平成 30 年度に対しては、67.7%の水準まで回復している。

令和３年度と比べて増加した主な要因は次のとおりと考えられる。

〇新型コロナウイルス感染症にかかる行動制限のない状況が継続していること
〇10 月から全国旅行支援が実施され、需要喚起がなされたこと
〇国内航空路線の運休・減便数の解消が進んでいること
〇日本政府による外国客に対する水際対策の緩和が進んだこと
〇国内・国外クルーズ船が再開されたこと

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

令和４年度の国内客は、対前年度比で 330 万 200 人、率にして 100.8%増の 657 万 4,500 人と大幅な増加となった。これまで過去最高を記録した平成 30 年度の 700 万 3,500 人に対し、93.9%の水準に回復している。

■令和４年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	増減数	増減率
東京	205.9	199.1	222.5	317.2	327.6	262.1	316.4	297	297.8	235.7	268.4	335	3,284.7	1,590.0	93.8%
関西	86.2	85.1	98.6	132.8	140.6	103.1	131.8	127.9	124.2	100.1	118.8	156.5	1,405.7	723.1	105.9%
福岡	51.8	50	55.8	64.3	67.7	54.9	74.6	75.9	75.3	61.9	68.6	86.9	787.7	375.1	90.9%
名古屋	38.4	35.7	41.6	57.2	62.2	43.2	59.3	53.3	55.7	46.1	51.3	66.1	610.1	318.1	108.9%
その他	26.7	26.9	30	36.3	42.6	31.4	45.9	48.8	49.2	43.6	47.4	57.5	486.3	293.9	152.8%
計	409.0	396.8	448.5	607.8	640.7	494.7	628.0	602.9	602.2	487.4	554.5	702.0	6,574.5	3,300.2	100.8%
増減数	146.4	201.6	285.6	357.4	352.5	289.8	329.0	234.9	178.6	262.8	375.3	286.3	3300.2		
増減率	55.8%	103.3%	175.3%	142.7%	122.3%	141.4%	110.0%	63.8%	42.2%	117.0%	209.4%	68.9%	100.8%		

■国内観光客の概況

令和４年度は、年度当初から行動制限がない状況が続いたこと、10 月から全国旅行支援が実施されたことなどから、通年で対前年同月を大幅に上回った。特に、年度後半（10 月～３月）は、コロナの影響のない平成 30 年度下半期と比較して 86,600 人の増と、2.5%上回った。

【方面別の動向】

東京方面　　羽田－那覇・宮古・石垣路線の増便などにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

関西方面　　関西・伊丹－那覇・石垣・宮古路線の増便、及び神戸－那覇路線での季節運航などにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

福岡方面　　福岡－那覇・宮古・石垣路線の増便などにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

名古屋方面　　中部－那覇・宮古・石垣路線の増便などにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

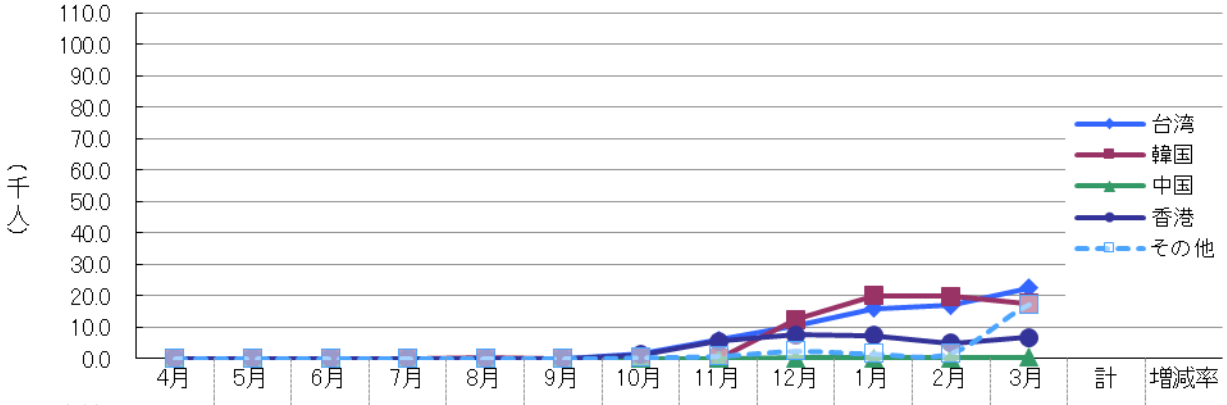
外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

令和４年度の外国客は 20 万 100 人となり、令和３年度のゼロから３年ぶりに皆増となった。

３月に運航が再開されたクルーズ船において、13,100 人（乗務員等含む。）の外国客の来訪があった。

■令和４年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	増減率
台湾	0	0	0	0	0	0	1.3	5.9	10.4	15.9	16.9	22.4	72.8	0.0%
韓国	0	0	0	0	0.1	0	0	0	12.3	20	19.7	17.4	69.5	0.0%
中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0.1	0.4	0.9	0.0%
香港	0	0	0	0	0	0	1.1	5.4	7.5	7.2	4.9	6.7	32.8	0.0%
その他	0	0	0	0	0	0	0.3	0.8	2.4	1.5	1.8	17.3	24.1	0.0%
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.7	12.1	32.8	44.8	43.4	64.2	200.1	0.0%
増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

■外国人観光客の概況

令和４年度は、中国を除くアジア近隣諸国（台湾・韓国・香港）からの航空路線で復便が進み運航が順次再開されたことやクルーズ船の運航が開始されたことから、３年ぶりに外国客の来訪があった。

【市場別の動向】

台湾　　台北・台中・高雄－那覇の航空路線が運休していたところ、10 月から複数の台北－那覇路線が再開されたほか、３月に基隆から那覇、石垣を経由するクルーズ船の運航が開始された。

韓国　　ソウル・釜山・大邱－那覇の航空路線が運休していたところ、８月にソウル－那覇路線が一時的に運航、12 月から複数のソウル－那覇路線が再開された。

中国本土　　中国（上海・北京・天津・広州・南京・重慶・青島）－那覇の航空路線の運休が継続しており、今後の状況を注視する必要がある。

香港　　香港－那覇の航空路線が運休となっていたところ、10 月から運航が再開された。

■令和５年度の見通し

国内客については、５月８日から新型コロナが「５類感染症」に移行することや７月まで全国旅行支援の継続が決定されたこと等を踏まえ、旺盛な旅行需要の取り込みにより、好調に推移すると見込まれる。

また、外国客についても、５月８日から新型コロナの「５類感染症」移行により水際対策が終了し、段階的に回復することが期待されるものの、一部の航空路線の運休が続いていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

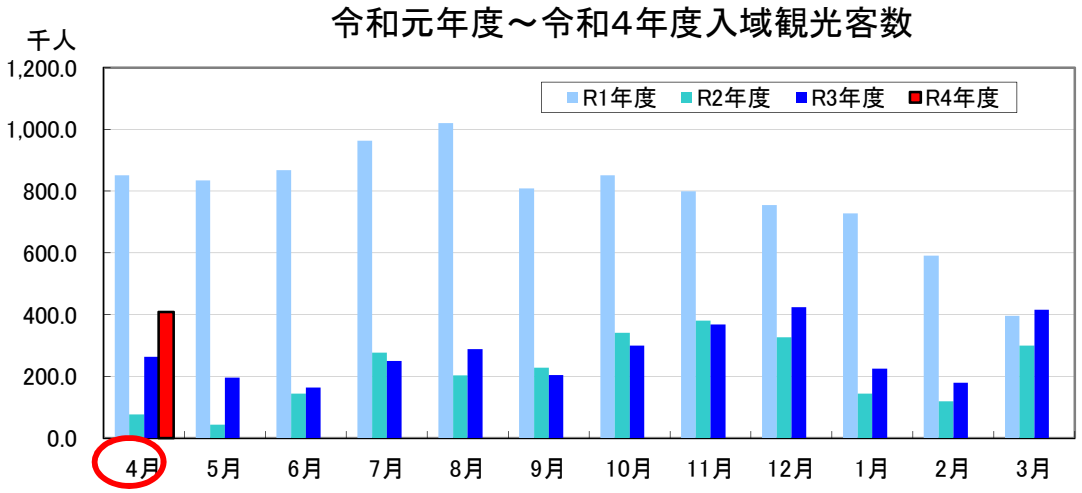
令和４年（2022）４月
入域観光客数概況

40万9,000人
対前年（R3）同月比　+146,400人、+55.8%
～対前年同月比で5ヶ月連続の増加～
※対前々年(R2)同月比　+33万1,700人、+429.1%
※（H31）同月比　△44万2,400人、△52.0%

入域状況

入域観光客数（令和2年度との比較）

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	409,000　人	262,600　人	＋　146,400人	＋　55.8%	100.0%
外国客	0　人	0　人	0人	0.0%	0.0%
合計	409,000　人	262,600　人	＋　146,400人	＋　55.8%	100.0%



国内客　入域状況

4月は、前年同月において一部地域でまん延防止等重点措置が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、減便規模の縮小やワクチン接種が普及していることなどから、前年同月を上回った。しかし、コロナ前の平成31年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。
5月は、大型連休において旅行需要が回復傾向となり、継続的な回復が期待されるものの、航空路線で減便が継続されていることや新規感染者数が高い水準にあることから、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

4月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。
5月は、日本への入国制限措置について段階的に緩和されており、さらに、観光目的での入国についても制限緩和が検討されていることなどから、今後の動向を注視していく必要がある。

国内客　地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	205,900　人	136,900　人	＋　69,000人	＋　50.4%	50.3%
関西方面	86,200　人	53,300　人	＋　32,900人	＋　61.7%	21.1%
福岡方面	51,800　人	32,400　人	＋　19,400人	＋　59.9%	12.7%
名古屋	38,400　人	25,700　人	＋　12,700人	＋　49.4%	9.4%
その他	26,700　人	14,300　人	＋　12,400人	＋　86.7%	6.5%
合計	409,000　人	262,600　人	＋　146,400人	＋　55.8%	100.0%

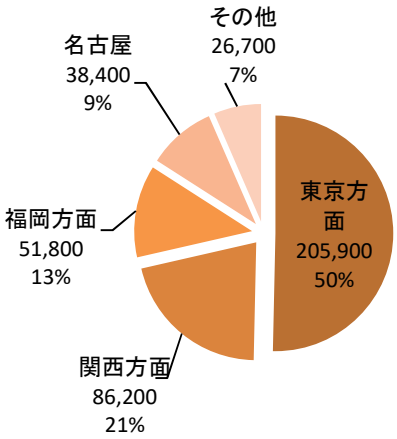
※国内海路客1,200人を含む（鹿児島1,200人）

外国客　国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数（乗務員等含む）	観光客数（乗務員等除く）	増減率	構成比	観光客数（乗務員等含む）	観光客数（乗務員等除く）	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小があった影響などから、前年同月を上回った。
5月は、行動制限がない状況が続いており、旅行需要の回復が期待されるものの、羽田－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

関西

4月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小があった影響などから、前年同月を上回った。
5月は、行動制限がない状況が続いており、旅行需要の回復が期待されるものの、関西－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

福岡

4月は、前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。
5月は、行動制限がない状況が続いており、旅行需要の回復が期待されるものの、福岡－那覇路線等で減便が継続されている影響などから、状況を注視していく必要がある。

名古屋

4月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、減便規模の縮小や名古屋－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。
5月は、行動制限がない状況が続いており、旅行需要の回復が期待されるものの、名古屋－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

台湾

4月は、台湾（台北、台中、高雄）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

4月は、韓国（ソウル、釜山、大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

4月は、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。
5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

4月は、香港－那覇路線が運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　長濱（ナガハマ）　TEL　098-866-2763

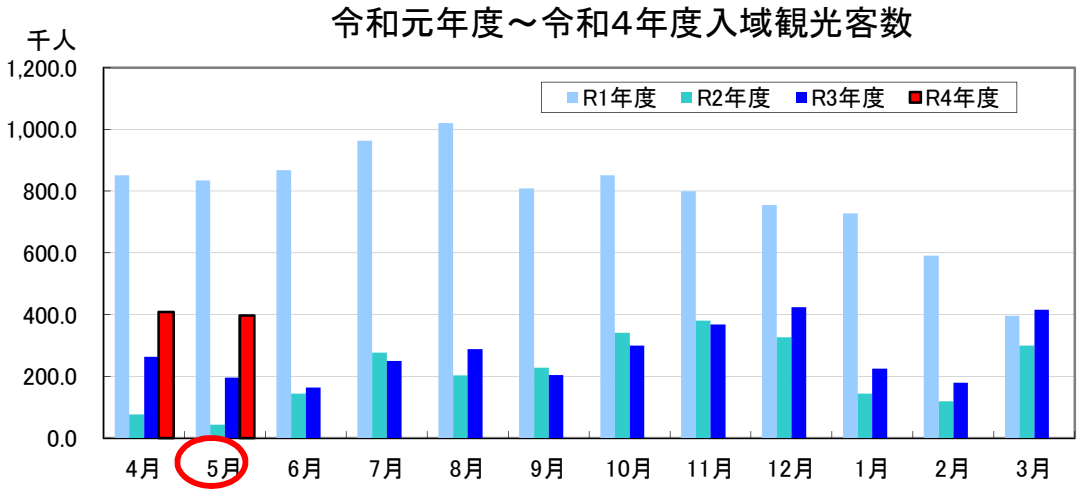
令和４年（2022）5月
入域観光客数概況

39万6,800人
対前年（R3）同月比　+20万1,600人、+203.3%
～対前年同月比で過去最も多い増加数～
※（R1）同月比　△43万8,100人、△52.5%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	396,800　人	195,200　人	＋　201,600人	＋　103.3%	100.0%
外国客	0　人	0　人	0人	0.0%	0.0%
合計	396,800　人	195,200　人	＋　201,600人	＋　103.3%	100.0%



国内客　入域状況

5月は、前年同月において一部地域でまん延防止等重点措置が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、減便規模の縮小やワクチン接種が普及していることなどから、前年同月を上回った。しかし、コロナ前の令和元年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。
6月は、コロナ禍からの経済社会活動の回復に向けた国や都道府県の取組等により、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、航空路線で減便が継続されていることや新規感染者数が依然として高い水準にあることから、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

5月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。
6月は、観光目的での入国について、感染リスクが低い国や地域からの添乗員付きパッケージツアー等一定の条件下において認められるなど、日本への入国制限措置について段階的に緩和されており、今後の国内外の動向を注視していく必要がある。

国内客　地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	199,100　人	108,800　人	＋　90,300人	＋　83.0%	50.2%
関西方面	85,100　人	34,300　人	＋　50,800人	＋　148.1%	21.4%
福岡方面	50,000　人	22,900　人	＋　27,100人	＋　118.3%	12.6%
名古屋	35,700　人	18,600　人	＋　17,100人	＋　91.9%	9.0%
その他	26,900　人	10,600　人	＋　16,300人	＋　153.8%	6.8%
合計	396,800　人	195,200　人	＋　201,600人	＋　103.3%	100.0%

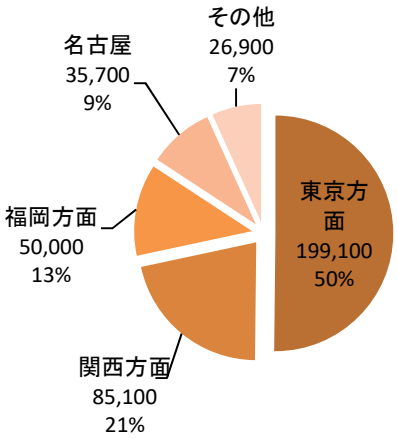
※国内海路客1,400人を含む（鹿児島1,400人）

外国客　国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数（乗務員等含む）	観光客数（乗務員等除く）	増減率	構成比	観光客数（乗務員等含む）	観光客数（乗務員等除く）	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小があった影響などから、前年同月を上回った。
6月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、羽田－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

関西

5月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、減便規模の縮小や石垣、宮古路線での復便があった影響などから、前年同月を上回った。
6月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、関西－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

福岡

5月は、前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。
6月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、福岡－那覇路線等で減便が継続されている影響などから、状況を注視していく必要がある。

名古屋

5月は、前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、減便規模の縮小や名古屋－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。
6月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、名古屋－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

台湾

5月は、台湾（台北、台中、高雄）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
6月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

5月は、韓国（ソウル、釜山、大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
6月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

5月は、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。
6月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

5月は、香港－那覇路線が運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
6月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　長濱（ナガハマ）　TEL　098-866-2763

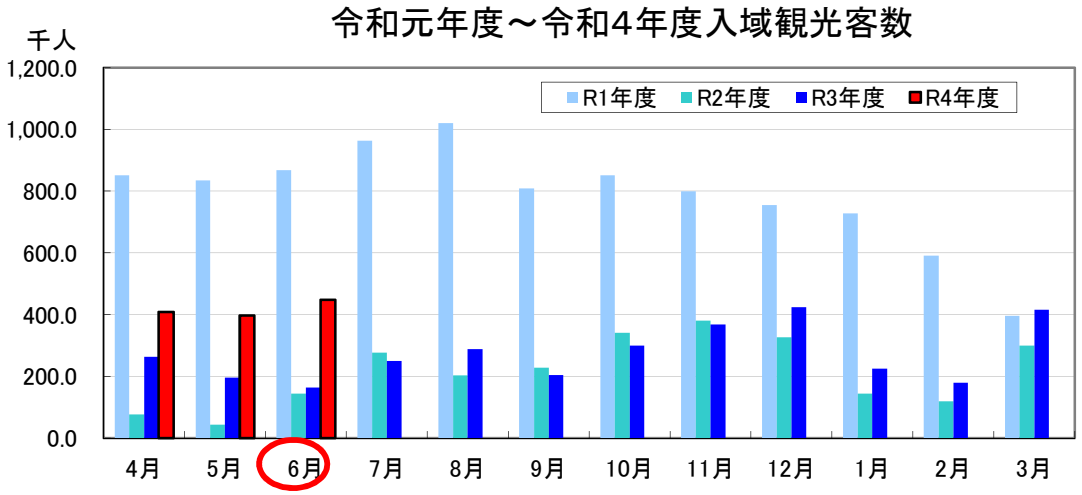
令和４年（2022）６月
入域観光客数概況

44万8,500人
対前年（R3）同月比　+28万5,600人、+175.3%
～対前年同月比で過去最も多い増加数（2ヶ月連続）～
※（R1）同月比　△41万9,700人、△48.3%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	448,500　人	162,900　人	＋　285,600人	＋　175.3%	100.0%
外国客	0　人	0　人	0人	0.0%	0.0%
合計	448,500　人	162,900　人	＋　285,600人	＋　175.3%	100.0%



国内客　入域状況

６月は、前年同月において一部地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、減便規模の縮小やワクチン接種が普及していることなどから、前年同月を上回った。しかし、コロナ前の令和元年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。
７月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、新規感染者数の増加に伴い国による全国旅行支援の実施が延期となったことなどから、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

６月は、観光目的での入国制限について、感染リスクが低い国や地域からの添乗員付きパッケージツアー等一定の条件下において認められるなど一部緩和されているものの、入国者数上限などの入国制限措置がとられていることなどから、引き続きゼロとなった。
７月は、那覇空港における受入体制が整ったことから運航再開が期待されるものの、入国者数上限など入国制限措置が引き続きとられていることなどから、航空各社及び国内外の動向を注視していく必要がある。

国内客　地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	222,500　人	95,000　人	＋　127,500人	＋　134.2%	49.6%
関西方面	98,600　人	30,500　人	＋　68,100人	＋　223.3%	22.0%
福岡方面	55,800　人	18,500　人	＋　37,300人	＋　201.6%	12.4%
名古屋	41,600　人	12,100　人	＋　29,500人	＋　243.8%	9.3%
その他	30,000　人	6,800　人	＋　23,200人	＋　341.2%	6.7%
合計	448,500　人	162,900　人	＋　285,600人	＋　175.3%	100.0%

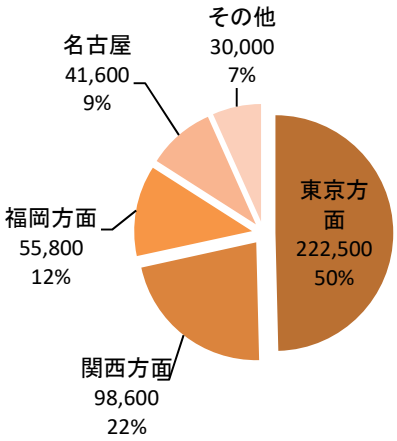
※国内海路客1,400人を含む（鹿児島1,400人）

外国客　国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小があった影響などから、前年同月を上回った。
7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

関西

6月は、前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、減便規模の縮小があった影響などから、前年同月を上回った。
7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

福岡

6月は、前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことや、減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。
7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

名古屋

6月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、減便規模の縮小や名古屋－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。
7月は、継続的な旅行需要の回復が期待されるものの、感染再拡大の影響により国による全国旅行支援の実施が延期になったことなどから、状況を注視していく必要がある。

台湾

6月は、台湾（台北、台中、高雄）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

6月は、韓国（ソウル、釜山、大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

6月は、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。
7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

6月は、香港－那覇路線が運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　長濱（ナガハマ）　TEL　098-866-2763

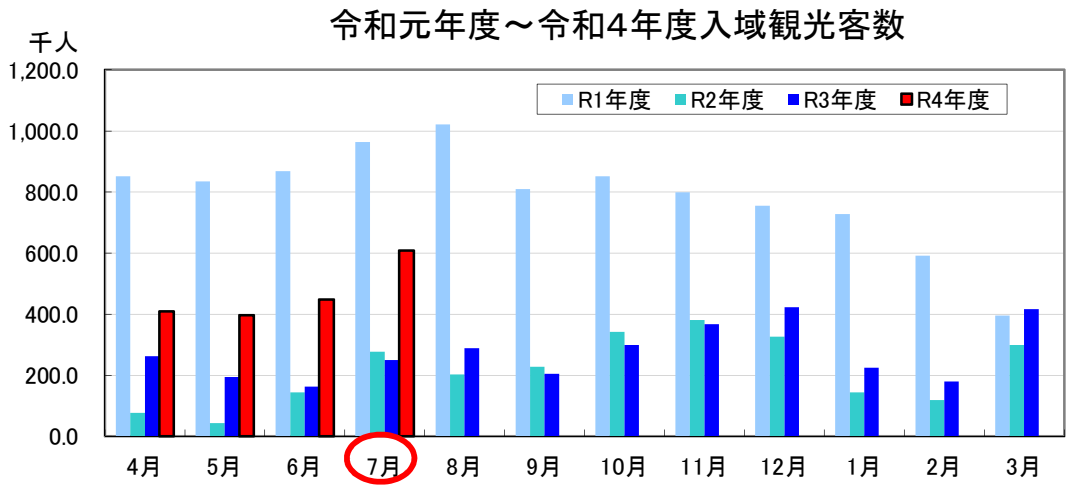
令和４年（2022）7月
入域観光客数概況

60万7,800人
対前年（R3）同月比　+35万7,400人、+142.7%
～対前年同月比で過去最も多い増加数（3ヶ月連続）～
※（R1）同月比　△35万5,800人、△36.9%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	607,800　人	250,400　人	＋　357,400人	＋　142.7%	100.0%
外国客	0　人	0　人	0人	0.0%	0.0%
合計	607,800　人	250,400　人	＋　357,400人	＋　142.7%	100.0%



国内客　入域状況

7月は、前年同月において一部地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、多くの航空路線で全便運航となり、各航空会社において提供座席数が増加したことなどから前年同月を上回った。しかし、コロナ前の令和元年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。
8月は、行動制限がない状況が続いており、また、夏休み期間中での旅行需要の回復が期待されるものの、全国的にコロナ変異株による急激な感染拡大が続いていることから、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

7月は、観光目的での入国制限について、感染リスクが低い国や地域からの添乗員付きパッケージツアー等一定の条件下において認められるなど一部緩和されているものの、入国者数上限などの入国制限措置がとられていることなどから、引き続きゼロとなった。
8月は、2年4ヶ月振りに一部路線（那覇－仁川）が再開されたものの、入国者数上限など入国制限措置が引き続きとられていることなどから、航空各社及び国内外の動向を注視していく必要がある。

国内客　地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	317,200　人	136,000　人	＋　181,200人	＋　133.2%	52.2%
関西方面	132,800　人	52,400　人	＋　80,400人	＋　153.4%	21.8%
福岡方面	64,300　人	28,500　人	＋　35,800人	＋　125.6%	10.6%
名古屋	57,200　人	21,500　人	＋　35,700人	＋　166.0%	9.4%
その他	36,300　人	12,000　人	＋　24,300人	＋　202.5%	6.0%
合計	607,800　人	250,400　人	＋　357,400人	＋　142.7%	100.0%

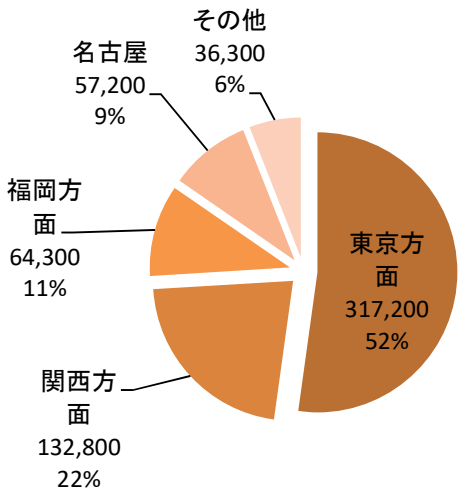
※国内海路客1,400人を含む（鹿児島1,400人）

外国客　国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A	0　人	0　人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、前年同月で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、成田－那覇路線を除き全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
8月は、夏休み期間中での回復が期待されるものの、全国的にコロナ変異株による急激な感染拡大が続いていることから、状況を注視していく必要がある。

関西

7月は、前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、関西－那覇路線を除き全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
8月は、夏休み期間中での旅行需要の回復が期待されるものの、全国的にコロナ変異株による急激な感染拡大が続いていることから、状況を注視していく必要がある。

福岡

7月は、主要方面別で対前年同月の増加率が最も小さかった。前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、福岡－那覇路線を除き全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
8月は、夏休み期間中での旅行需要の回復が期待されるものの、全国的にコロナ変異株による急激な感染拡大が続いていることから、状況を注視していく必要がある。

名古屋

7月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、航空路線で全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
8月は、夏休み期間中での旅行需要の回復が期待されるものの、全国的にコロナ変異株による急激な感染拡大が続いていることから、状況を注視していく必要がある。

台湾

7月は、台湾（台北、台中、高雄）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
8月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

7月は、韓国（ソウル、釜山、大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
8月は、ティーウェイ航空（那覇－仁川）が2年4ヵ月振りに運航再開されているものの、他の航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想。しかし日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

7月は、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の8路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。
8月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

7月は、香港－那覇路線が運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
8月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL　098-866-2763

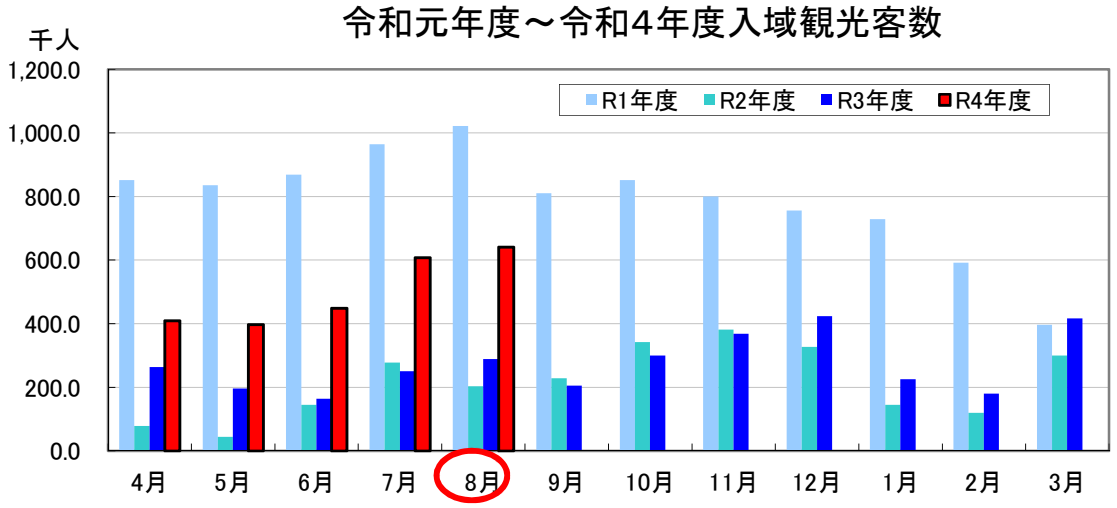
令和４年（2022）８月
入域観光客数概況

64万800人
対前年（R3）同月比　+35万2,600人、+122.3%
～2年5ヶ月振りに外国客を計上～
～対前年同月比で過去2番目に多い増加数～
※（R1）同月比　△38万400人、△37.2%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	640,700　人	288,200　人	＋　352,500人	＋　122.3%	100.0%
外国客	100　人	0　人	100人	0.0%	0.0%
合計	640,800　人	288,200　人	＋　352,600人	＋　122.3%	100.0%



国内客　入域状況

8月は、前年同月において多くの地域で緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、一部を除く航空路線で全便運航となったこと、お盆期間での旅客数が前年同月と比べて大幅に増加したことなどから前年同月を上回った。また、コロナ前の令和元年同月と比べると下回ってはいるものの、約9割まで回復しつつある。
9月は、行動制限がない状況の継続、また、シルバーウイーク期間もあることから、更なる旅行需要の回復が期待されるところであるが、相次ぐ台風接近による航空便の欠航影響等、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

8月は、一部路線（那覇－仁川）の再開により、2年5ヶ月振りの外国客の入域となった。
9月は、入国者数上限などの入国制限措置の緩和が段階的に引き続きとられていることなどから、航空各社及び国内外の動向を注視していく必要がある。
また、10月から、香港－那覇、台湾－那覇の一部航空路線の再開が見込まれている。

国内客　地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	327,600　人	155,000　人	＋　172,600人	＋　111.4%	51.1%
関西方面	140,600　人	62,400　人	＋　78,200人	＋　125.3%	21.9%
福岡方面	67,700　人	30,100　人	＋　37,600人	＋　124.9%	10.6%
名古屋	62,200　人	24,500　人	＋　37,700人	＋　153.9%	9.7%
その他	42,600　人	16,200　人	＋　26,400人	＋　163.0%	6.6%
合計	640,700　人	288,200　人	＋　352,500人	＋　122.3%	100.0%

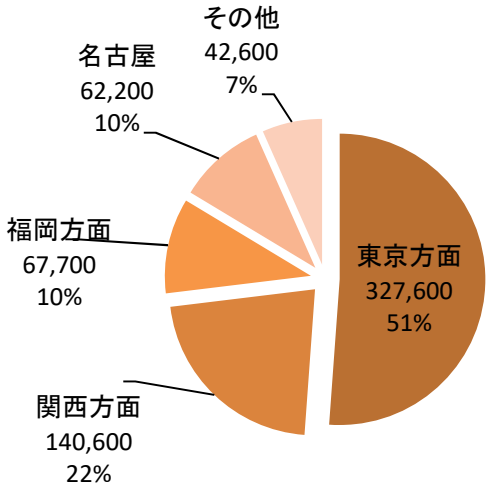
※国内海路客1,400人を含む（鹿児島1,400人）

外国客　国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	0.0%
韓国	100　人	100　人	0　人	100人	#DIV/0!	100.0%
中国本土	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	0.0%
香港	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	0.0%
アメリカ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	0.0%
タイ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	0.0%
シンガポール	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	0.0%
その他	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	0.0%
合計	100　人	100　人	0　人	100人	#DIV/0!	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の地域構成比

外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
韓国	100 人	100 人	#DIV/0!	100.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%
合計	100 人	100 人	#DIV/0!	100.0%	0 人	0 人	#DIV/0!	0.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、主要方面別で前年同月の増加率が最も小さかった。前年同月において緊急事態宣言が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また成田－那覇路線を除き全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
9月は、行動規制のない状況が継続されるなか、シルバーウイーク期間中において一部航空路線での増便など、回復の後押しが期待されるものの、相次ぐ台風接近による航空便の欠航影響等、状況を注視していく必要がある。

関西

8月は、前年同月でまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が適用されていたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
9月は、行動規制のない状況が継続されるなか、シルバーウイーク期間中において一部航空路線での増便など、回復の後押しが期待されるものの、相次ぐ台風接近による航空便の欠航影響等、状況を注視していく必要がある。

福岡

8月は、前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
9月は、行動規制のない状況が継続されるなか、シルバーウイーク期間中においての全便運行など、回復の後押しが期待されるものの、相次ぐ台風接近による航空便の欠航影響等、状況を注視していく必要がある。

名古屋

8月は、主要方面別で前年同月の増加率が最も大きかった。前年同月でまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また航空路線で全便運航となった影響などから、前年同月を上回った。
9月は、行動規制のない状況が継続されるなか、シルバーウイーク期間中において一部航空路線での増便など、回復の後押しが期待されるものの、相次ぐ台風接近による航空便の欠航影響等、状況を注視していく必要がある。

台湾

8月は、台湾（台北、台中、高雄）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
9月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。
10月には、台湾－那覇の一部航空路線の就航が予定されている。

韓国

8月は、ティーウェイ航空（那覇－仁川）が2年4ヵ月振りに運航再開されたものの、日本への入国制限措置が継続されたことなどが影響し運休となった。また、他の航空路線も運休、クルーズ船は運航停止が継続していることから、限定的となった。
9月は、韓国（ソウル、釜山、大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていること、クルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

8月は、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。
9月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

8月は、香港－那覇路線が運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
9月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想されるが、日本への入国制限が段階的に緩和されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。
10月には、香港－那覇の一部航空路線の再開が予定されている。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL　098-866-2763

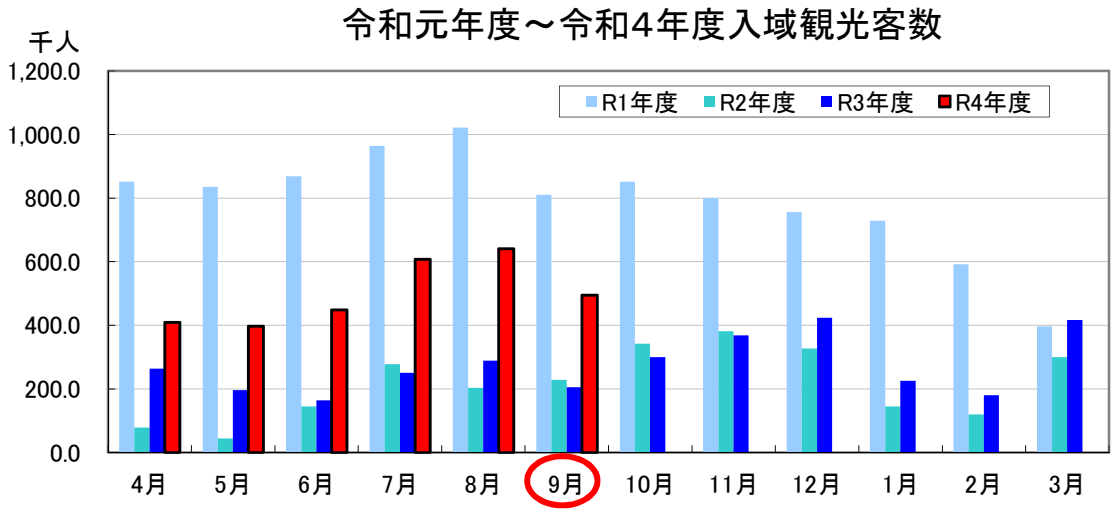
令和４年（2022）９月
入域観光客数概況

４９万4,700人
対前年（R3）同月比　+28万9,800人、+141.4%
～対前年同月比で過去3番目に多い増加数～
※（R1）同月比　△31万4,600人、△38.9.%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	494,700　人	204,900　人	＋　289,800人	＋　141.4%	100.0%
外国客	0　人	0　人	0人	0.0%	0.0%
合計	494,700　人	204,900　人	＋　289,800人	＋　141.4%	100.0%



国内客　入域状況

9月は、前年同月において多くの地域で緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また、各航空路線で全便運航となったことや、シルバーウイーク期間における旅客数増などの影響により、前年同月と比べて大幅に増加した。複数の台風接近による航空便欠航があったものの、コロナ前の令和元年同月比で8割を超えており、回復傾向が継続している。
10月は、行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援が実施されていることから、更なる旅行需要の回復が見込まれるが、引き続き状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

9月は、入国者数上限引き上げなど、水際対策が段階的に緩和されたものの、航空路線で再び全路線が運休となったことから、外国客はゼロとなった。
10月は、「台北－那覇」および「香港－那覇」での一部路線で運航が再開されていることや、「台北-那覇」路線で新規就航が予定されていることから、外国客数回復への好影響が期待される。

国内客　地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	262,100　人	117,000　人	＋　145,100人	＋　124.0%	53.0%
関西方面	103,100　人	41,800　人	＋　61,300人	＋　146.7%	20.8%
福岡方面	54,900　人	22,300　人	＋　32,600人	＋　146.2%	11.1%
名古屋	43,200　人	14,200　人	＋　29,000人	＋　204.2%	8.7%
その他	31,400　人	9,600　人	＋　21,800人	＋　227.1%	6.3%
合計	494,700　人	204,900　人	＋　289,800人	＋　141.4%	100.0%

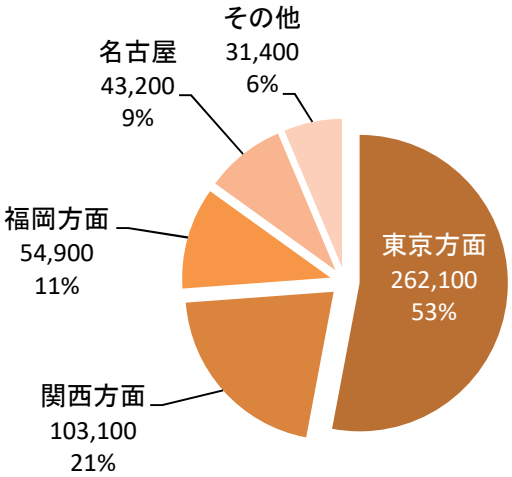
※国内海路客1,000含む（鹿児島1,000人）

外国客　国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0　人	0　人	0　人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員などを含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、主要方面別で前年同月の増加率が最も小さかった。前年同月において緊急事態宣言が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また航空便の全便運航、およびシルバーウィーク期間中での旅客数増の影響などから、前年同月を上回った。
10月は、行動制限がない状況の継続、加えて全国旅行支援が実施されることから、旅行需要回復の後押しが見込まれるものの、状況を注視していく必要がある。

関西

9月は、前年同月において緊急事態宣言が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また航空便の全便運航、およびシルバーウィーク期間中での旅客数増の影響などから、前年同月を上回った。
10月は、行動制限がない状況の継続、加えて全国旅行支援が実施されることから、旅行需要回復の後押しが見込まれるものの、状況を注視していく必要がある。

福岡

9月は、前年同月において緊急事態宣言が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また航空便の全便運航、およびシルバーウィーク期間中での旅客数増の影響などから、前年同月を上回った。
10月は、行動制限がない状況の継続、加えて全国旅行支援が実施されることから、旅行需要回復の後押しが見込まれるものの、状況を注視していく必要がある。

名古屋

9月は、主要方面別で前年同月の増加率が最も大きかった。前年同月において緊急事態宣言が適用されたことに対し、行動制限がない状況であったこと、また航空便の全便運航、およびシルバーウィーク期間中での旅客数増の影響などから、前年同月を上回った。
10月は、行動制限がない状況の継続、加えて全国旅行支援が実施されることから、旅行需要回復の後押しが見込まれるものの、状況を注視していく必要がある。

台湾

9月は、台湾（台北・台中・高雄）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
10月は、日本への入国制限が大幅に緩和され、「台北－那覇」路線で運航再開や新規就航となるなど、回復に向けた動きが活発化することが期待される。一方でクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

9月は、韓国（ソウル・釜山・大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、再びゼロとなった。
10月は、日本への入国制限が大幅に緩和されたことから、回復に向けた動きが活発化することが期待される。航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

9月は、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。
10月は、日本への入国制限が大幅に緩和されたことから、回復に向けた動きが活発化することが期待されるものの、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。中国側における水際対策の状況など、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

9月は、香港－那覇路線が運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
10月は、日本への入国制限が大幅に緩和され、「香港－那覇」での運航が再開となるなど、回復に向けた動きが活発化することが期待される。一方でクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL　098-866-2763

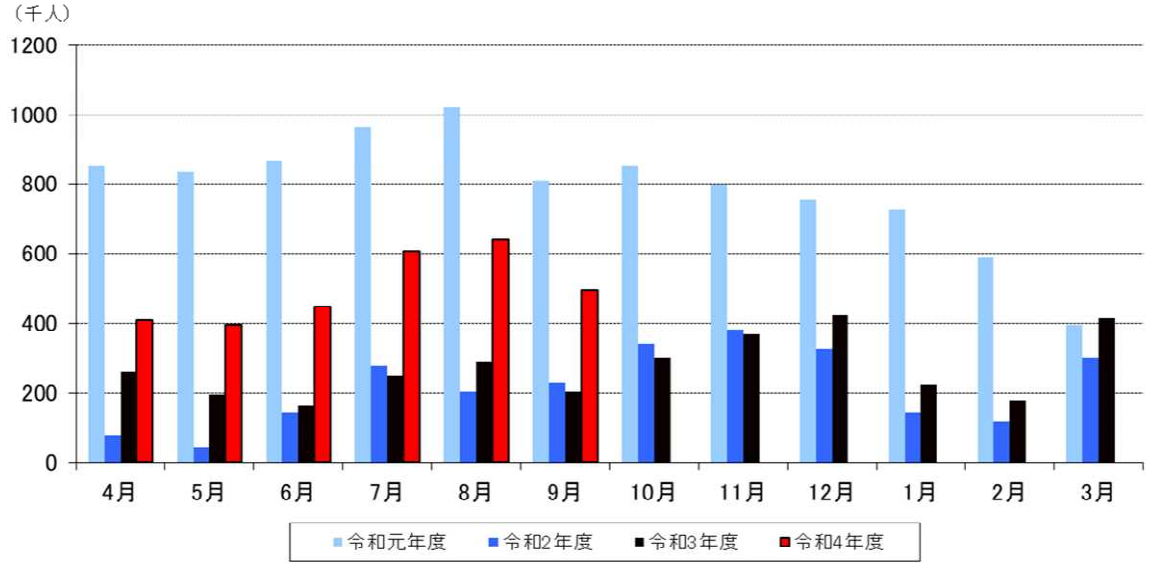
令和４年度上半期　沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部　観光政策課
令和４年 10 月発表

令和４年度上半期 299 万 7,600 人
対前年度(R3)比　＋163 万 3,400 人、＋119.7%
対前年同期比で増加数、増加率ともに過去最大
※R1 比　△235 万 1,000 人　△44.0%

入域観光客数（国内＋外国）

■月別入域観光客数の推移（令和元年度～令和４年度）



■令和４年度上半期入域観光客の状況（令和３年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和4年度	**409,000**	**396,800**	**448,500**	**607,800**	**640,800**	**494,700**	**2,997,600**
令和3年度	262,600	195,200	162,900	250,400	288,200	204,900	1,364,200
増減数	146,400	201,600	285,600	357,400	352,600	289,800	1,633,400
増減率	55.8%	103.3%	175.3%	142.7%	122.3%	141.4%	119.7%

■令和４年度上半期の概況（総括）

令和４年度上半期の入域観光客数は、299 万 7,600 人となり、対前年同期比で 163 万 3,400 人、率にして 119.7%の増となり、増加数、増加率ともに過去最大となった。

国内観光客については、前年同期において一部地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったことなどから、前年同期を上回った。

また、外国人観光客については、日本への入国制限措置がとられたことなどから、ゼロとなる月が多かったが、入国制限措置が段階的に緩和され、８月には一部路線（仁川－那覇）の再開により２年５ヶ月ぶりに外国人観光客数を計上した。

国内観光客についての動向

■令和４年度上半期国内観光客の状況（令和３年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和4年度	**409,000**	**396,800**	**448,500**	**607,800**	**640,700**	**494,700**	**2,997,500**
令和3年度	262,600	195,200	162,900	250,400	288,200	204,900	1,364,200
増減数	146,400	201,600	285,600	357,400	352,500	289,800	1,633,300
増減率	55.8%	103.3%	175.3%	142.7%	122.3%	141.4%	119.7%

■国内観光客の概況

前年同期において一部地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し行動制限がない状況であったこと、期間前半において減便規模が縮小したこと、後半において多くの航空路線で全便運航となったことにより提供座席数が増加したことなどから、前年同期を上回った。特に後半においては、コロナの影響を受けない令和元年度同月比の約９割となるなど、大幅な回復が見られた。

下半期は、国において、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立をより強固なものとしたＷｉｔｈコロナに向けた新たな段階へ移行する方針が示されたことに加え、10 月 11 日から「全国旅行支援」が実施されていることから、更なる旅行需要の回復が期待される。

外国人観光客についての動向

■令和４年度上半期外国人観光客の状況（令和３年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和4年度	**0**	**0**	**0**	**0**	**100**	**0**	**100**
令和3年度	0	0	0	0	0	0	0
増減数	0	0	0	0	100	0	100
増減率	－	－	－	－	100.0%	－	100.0%

■外国人観光客の概況

台湾、中国、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことなどから、ゼロとなる月が多かった。観光目的での入国制限が一部緩和されたことを受け、８月には一部路線（仁川－那覇）の再開により２年５ヶ月ぶりに外国人観光客数を計上したものの、入国制限措置などの影響による搭乗率の低下などから再び運休となった。

下半期は、10 月 11 日以降、査証免除措置の適用再開や個人旅行の再開、入国者数の上限撤廃など水際対策が大幅に緩和されることから、本格的な旅行需要の回復が期待される。今後の航空路線の復便やクルーズ船の運航再開の状況、国内外の動向を注視していく必要がある。

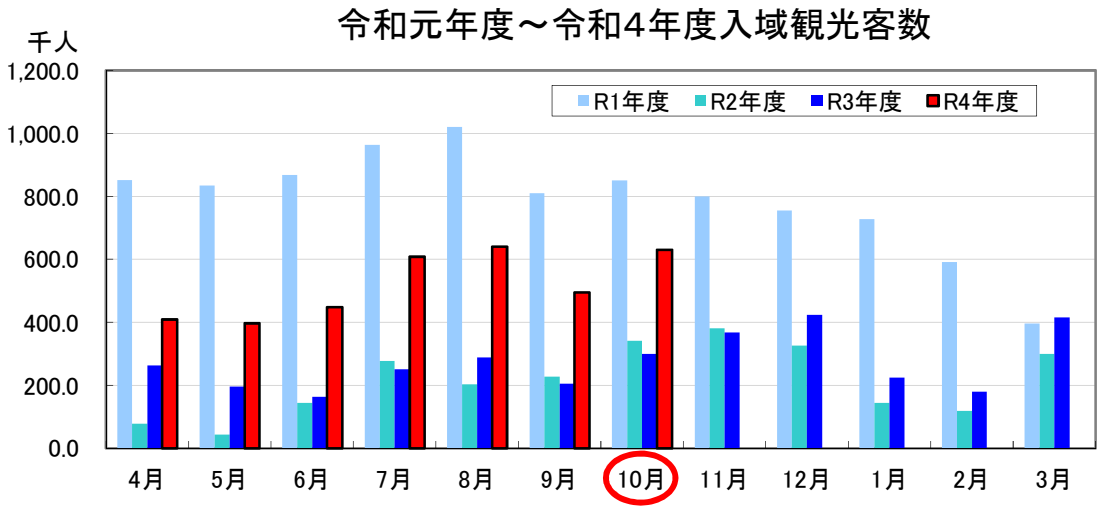
令和４年（2022）１０月
入域観光客数概況

63万700人
対前年（R3）同月比　+33万1,700人、+110.9%
～国内客は、コロナ禍前（R1同月）の水準を上回る～
※（R1）同月比　△22万600人、△25.9%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
国内客	628,000　人	299,000　人	＋　329,000人	＋　110.0%	99.6%
外国客	2,700　人	0　人	2,700人	皆増	0.4%
合計	630,700　人	299,000　人	＋　331,700人	＋　110.9%	100.0%



国内客　入域状況

10月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していること、全国旅行支援により需要喚起がなされたこと、加えて各航空路線で全便運航となったことなどの影響から前年同月を上回った。また、令和元年同月比で101.2パーセントとなっており、コロナ禍前の水準を上回った。
11月は、全国旅行支援の継続、および各航空路線での全便運航が予定されていることから、引き続き好調に推移することが期待されるが、全国的に感染者数が増加傾向にあることから、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

10月は、水際対策の緩和を受け「台北－那覇」路線で3社、「香港－那覇」路線で1社の運航が開始されたことにより、2ヶ月ぶりに外国客数が計上された。
11月は、「台北－那覇」路線で、さらに2社の運航が再開されていることから外国客数回復への後押しが期待される。

国内客　地域別入域状況

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	316,400　人	153,800　人	＋　162,600人	＋　105.7%	50.4%
関西方面	131,800　人	64,700　人	＋　67,100人	＋　103.7%	21.0%
福岡方面	74,600　人	38,500　人	＋　36,100人	＋　93.8%	11.9%
名古屋	59,300　人	26,500　人	＋　32,800人	＋　123.8%	9.4%
その他	45,900　人	15,500　人	＋　30,400人	＋　196.1%	7.3%
合計	628,000　人	299,000　人	＋　329,000人	＋　110.0%	100.0%

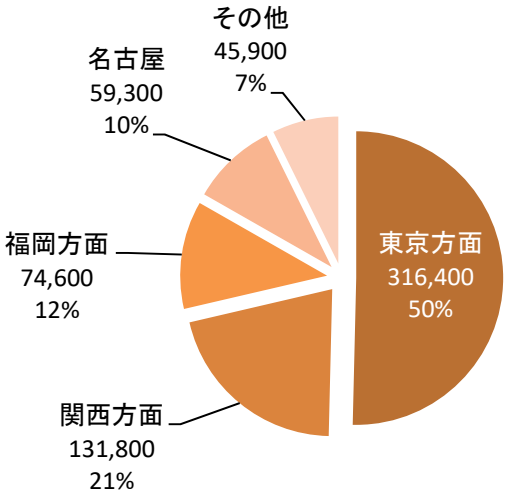
※国内海路客1,800含む（鹿児島1,000人）

外国客　国籍別入域状況

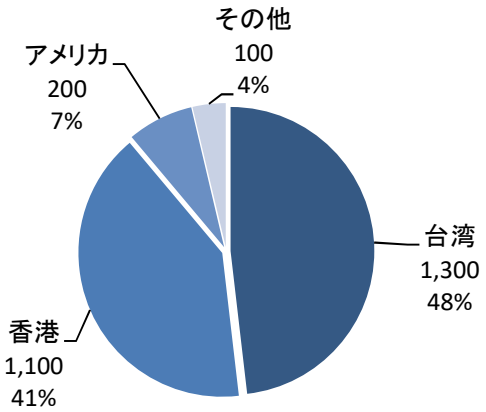
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	1,300　人	1,300　人	0　人	1,300人	皆増	48.1%
韓国	0　人	0　人	0　人	0人	―	0.0%
中国本土	0　人	0　人	0　人	0人	―	0.0%
香港	1,100　人	1,100　人	0　人	1,100人	皆増	40.7%
アメリカ	200　人	200　人	0　人	200人	皆増	7.4%
タイ	0　人	0　人	0　人	0人	―	0.0%
シンガポール	0　人	0　人	0　人	0人	―	0.0%
その他	100　人	100　人	0　人	100人	皆増	3.7%
合計	2,700　人	2,700　人	0　人	2,700人	皆増	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員などを含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	1,300 人	1,300 人	皆増	48.1%	0 人	0 人	―	0.0%
韓国	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
中国本土	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
香港	1,100 人	1,100 人	皆増	40.7%	0 人	0 人	―	0.0%
アメリカ	200 人	200 人	皆増	7.4%	0 人	0 人	―	0.0%
タイ	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
シンガポール	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
その他	100 人	100 人	皆増	3.7%	0 人	0 人	―	0.0%
合計	2,700 人	2,700 人	皆増	100.0%	0 人	0 人	―	0.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援が実施されていること、また、各航空路線で全便運航となったことから前年同月を上回った。
11月は、行動制限がない状況の継続、全国旅行支援の実施などにより、好調に推移することが期待されるものの、感染状況を注視していく必要がある。

関西

10月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援が実施されていること、また、各航空路線で全便運航となったことから前年同月を上回った。
11月は、行動制限がない状況の継続、全国旅行支援の実施などにより、好調に推移することが期待されるものの、感染状況を注視していく必要がある。

福岡

10月は、主要方面別で前年同月比の増加率が最も小さかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援が実施されていること、また、各航空路線で全便運航となったことから前年同月を上回った。
11月は、行動制限がない状況の継続、全国旅行支援の実施などにより、好調に推移することが期待されるものの、感染状況を注視していく必要がある。

名古屋

10月は、主要方面別で前年同月比の増加率が最も大きかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援が実施されていること、また、各航空路線で全便運航となったことから前年同月を上回った。
11月は、行動制限がない状況の継続、全国旅行支援の実施などにより、好調に推移することが期待されるものの、感染状況を注視していく必要がある。

台湾

10月は、コロナ感染症に関する水際対策の大幅な緩和に伴い「台北－那覇」路線で運行が再開となるなど、2年7ヶ月振りに客数が計上された
11月は、さらに外国旅行客の需要回復に向けた動きが活発化することが期待される。一方で、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

10月は、コロナ感染症に関する水際対策の大幅な緩和がされたものの、韓国（ソウル・釜山・大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていることなどから、入客数はゼロとなった。
11月は、日本への入国制限が大幅に緩和されたことから、運行再開へ向けた動きが活発化することが期待されるが、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続している。また、12月から「仁川-那覇」路線の運行が再開される予定であることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

10月は、日本におけるコロナ感染症に関する水際対策の大幅な緩和がされたものの中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていることなどから引き続きゼロとなった。
11月は、日本への入国制限が大幅に緩和されたものの、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。中国側における水際対策の状況など、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

10月は、コロナ感染症に関する水際対策の大幅な緩和に伴い「香港－那覇」路線で運行が再開となるなど、2年7ヶ月振りに客数が計上された。
11月は、さらに外国需要客の需要回復に向けた動きが活発化することが期待される。一方で航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL　098-866-2763

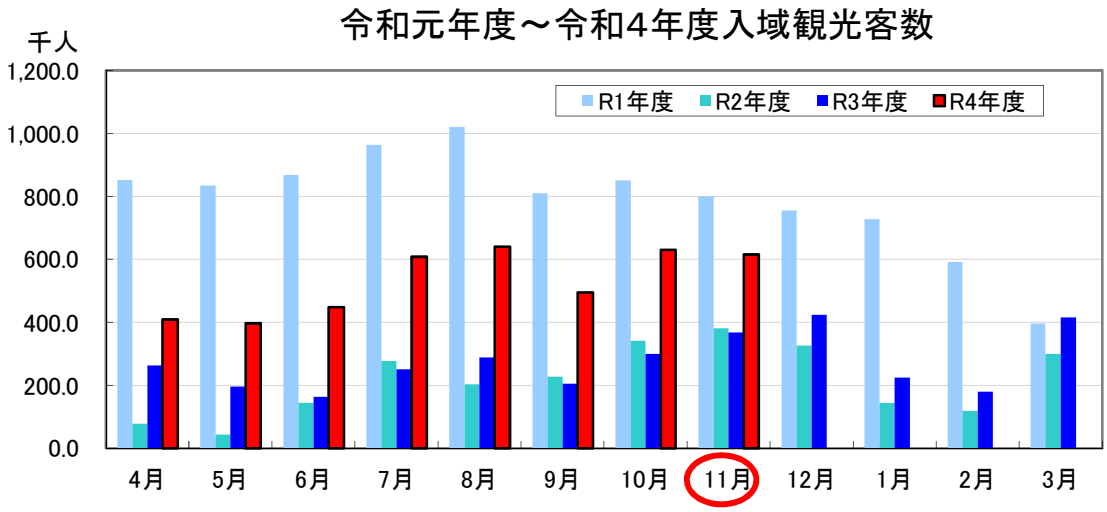
令和４年（2022）11月
入域観光客数概況

61万5,000人
対前年（R3）同月比　+24万7000人、+67.1%
～国内客はコロナ禍前（R1同月）の水準を上回る（2ヶ月連続）～
※（R1）同月比　△18万4,200人、△23.0%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）　※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	R1年度
国内客	602,900　人	368,000　人	＋　234,900人	＋　63.8%	98.0%	600,100　人
外国客	12,100　人	0　人	12,100人	皆増	2.0%	199,100　人
合計	615,000　人	368,000　人	＋　247,000人	＋　67.1%	100.0%	799,200　人



国内客　入域状況

11月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることや、全国旅行支援により需要取込がなされたこと、また各航空路線における全便運航や、一部路線での増便などの影響から前年同月を上回った。また、令和元年同月比で100.5%となっており、2ヶ月連続でコロナ禍前の水準を上回った。
12月は、行動制限がない状況や、全国旅行支援の実施が継続していること、また各航空路線での全便運航や、増便が予定されていること、さらに年末年始における需要増が見込まれることなどから、引き続き好調に推移することが期待されるが、全国的に感染者数が増加傾向にあり、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

11月は、日本における水際対策の緩和を受け、「台北－那覇」「香港－那覇」路線で追加の運航再開がなされたことなどから、令和2年2月以来、2年9ヶ月振りに、外国客数が1万人を上回った。
12月は、韓国の「仁川－那覇」路線での運航が再開されていることから、引き続き、外国客数回復への後押しが期待される。

国内客　地域別入域状況

※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	R1年度
東京方面	297,000 人	178,200 人	＋ 118,800人	＋ 66.7%	49.3%	291,900 人
関西方面	127,900 人	79,400 人	＋ 48,500人	＋ 61.1%	21.2%	116,900 人
福岡方面	75,900 人	52,200 人	＋ 23,700人	＋ 45.4%	12.6%	78,400 人
名古屋	53,300 人	32,500 人	＋ 20,800人	＋ 64.0%	8.8%	50,600 人
その他	48,800 人	25,700 人	＋ 23,100人	＋ 89.9%	8.1%	62,300 人
合計	602,900 人	368,000 人	＋ 234,900人	＋ 63.8%	100.0%	600,100 人

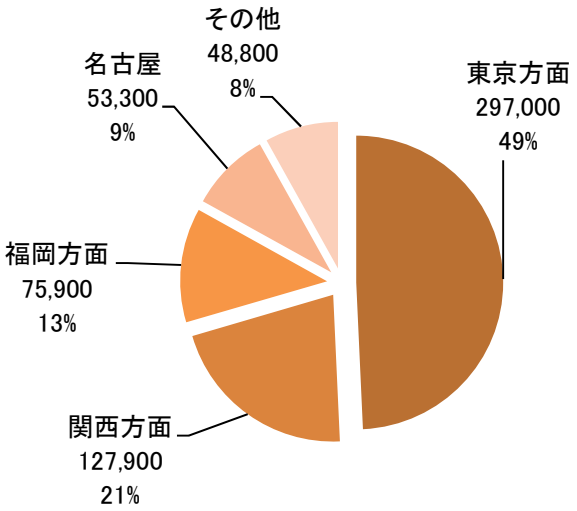
※国内海路客1,400含む（鹿児島1,400人）

外国客　国籍別入域状況

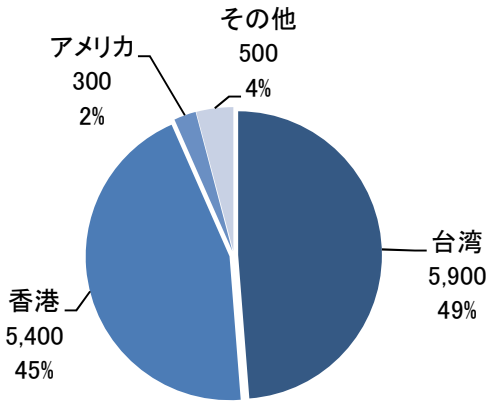
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	5,900 人	5,900 人	0 人	5,900人	皆増	48.8%
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	―	0.0%
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	―	0.0%
香港	5,400 人	5,400 人	0 人	5,400人	皆増	44.6%
アメリカ	300 人	300 人	0 人	300人	皆増	2.5%
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	―	0.0%
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	―	0.0%
その他	500 人	500 人	0 人	500人	皆増	4.1%
合計	12,100 人	12,100 人	0 人	12,100人	皆増	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員などを含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	5,900 人	5,900 人	皆増	48.8%	0 人	0 人	―	0.0%
韓国	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
中国本土	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
香港	5,400 人	5,400 人	皆増	44.6%	0 人	0 人	―	0.0%
アメリカ	300 人	300 人	皆増	2.5%	0 人	0 人	―	0.0%
タイ	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
シンガポール	0 人	0 人	―	0.0%	0 人	0 人	―	0.0%
その他	500 人	500 人	皆増	4.1%	0 人	0 人	―	0.0%
合計	12,100 人	12,100 人	皆増	100.0%	0 人	0 人	―	0.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、主要方面別で前年同月比の増加率が最も大きかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援の実施による需要取込がなされたこと、また、各航空路線で全便運航となったことなどから前年同月を上回った。
12月は、行動制限がない状況や、全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き、感染状況を注視していく必要がある。

関西

11月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援の実施による需要取込がなされたこと、また、各航空路線で全便運航となったことなどから前年同月を上回った。
12月は、行動制限がない状況や、全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き、感染状況を注視していく必要がある。

福岡

11月は、主要方面別で前年同月比の増加率が最も小さかったが、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援の実施による需要取込がなされたこと、また、各航空路線で全便運航となったことなどから前年同月を上回った。
12月は、行動制限がない状況や、全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き、感染状況を注視していく必要がある。

名古屋

11月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況が継続していることに加えて、全国旅行支援の実施による需要取込がなされたこと、また、各航空路線で全便運航となったことなどから前年同月を上回った。
12月は、行動制限がない状況や、全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き、感染状況を注視していく必要がある。

台湾

11月は、日本における水際対策の緩和を受け、「台北－那覇」路線で追加の運航再開があったことなどから、前月と比べて大幅に客数が増加した。
12月は、さらなる旅行需要の回復が期待されるが、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

11月は、日本における水際対策が緩和されたものの、韓国（仁川・釜山・大邱）－那覇の3路線が全て運休になっていることなどから、入客数はゼロとなった。
12月は、「仁川－那覇」路線での運航が再開されていることから、旅行需要回復への後押しが期待されるが、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

11月は、日本における水際対策が緩和されたものの、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていることなどから引き続きゼロとなった。
12月は、中国でのゼロコロナ政策の緩和が発表されたが、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

11月は、日本における水際対策の緩和を受け、「香港－那覇」路線で追加の運航再開があったことなどから、前月と比べて大幅に客数が増加した。
12月は、さらなる旅行需要の回復が期待されるが、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL：098-866-2763

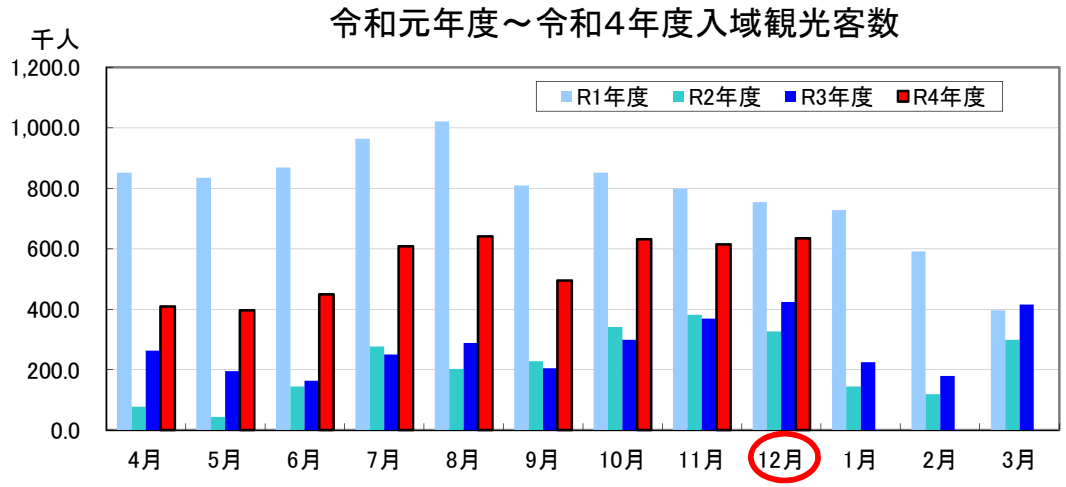
令和４年（2022）12月
入域観光客数概況

６３万５,０００人
対前年（R3）同月比　+21万1,400人、+49.9%
～国内客はコロナ禍前（R1同月）の水準を上回る（3ヶ月連続）～
～12月の国内客としては過去最多～
※（R1）同月比　△12万100人、△15.9%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）　※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	R1年度
国内客	602,200　人	423,600　人	＋　178,600人	＋　42.2%	94.8%	572,700　人
外国客	32,800　人	0　人	＋　32,800人	皆増	5.2%	182,400　人
合計	635,000　人	423,600　人	＋　211,400人	＋　49.9%	100.0%	755,100　人



国内客　入域状況

12月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続されたことに加え、航空路線における年末年始期間等の増便などの影響から前年同月を上回った。令和元年同月比で105.2%となっており、3ケ月連続でコロナ禍前の水準を上回った。
1月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援が再開されていることなどの影響から、引き続き好調に推移することが期待される。しかし、全国的な感染状況の影響が懸念されることから、状況を注視していく必要がある。

外国客　入域状況

12月は、既に運航を再開している「台北―那覇」、「香港―那覇」路線に加えて、「仁川―那覇」路線で運行再開がされたことなどにより、外国客数が3万人を上回った。
1月は、「台北―那覇」路線において新たに1社の運航が再開されていることから、引き続き外国客数回復への後押しが期待される。

国内客　地域別入域状況

※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	R1年度
東京方面	297,800 人	207,200 人	＋ 90,600人	＋ 43.7%	49.5%	277,900 人
関西方面	124,200 人	88,300 人	＋ 35,900人	＋ 40.7%	20.6%	114,000 人
福岡方面	75,300 人	57,600 人	＋ 17,700人	＋ 30.7%	12.5%	74,000 人
名古屋	55,700 人	39,800 人	＋ 15,900人	＋ 39.9%	9.2%	47,300 人
その他	49,200 人	30,700 人	＋ 18,500人	＋ 60.3%	8.2%	59,500 人
合計	602,200 人	423,600 人	＋ 178,600人	＋ 42.2%	100.0%	572,700 人

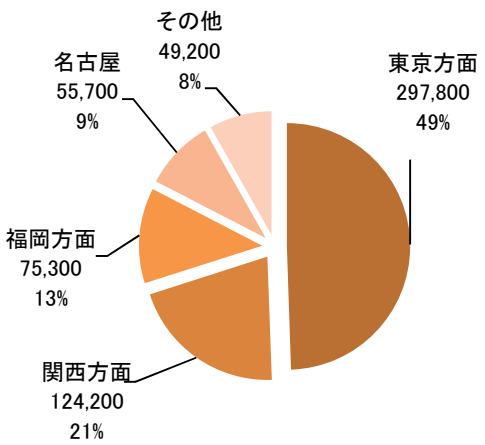
※国内海路客1,800人を含む

外国客　国籍別入域状況

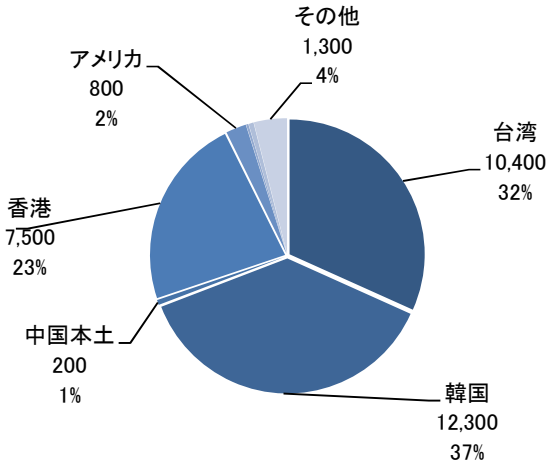
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	10,400 人	10,400 人	0 人	＋ 10,400人	皆増	31.7%
韓国	12,300 人	12,300 人	0 人	＋ 12,300人	皆増	37.5%
中国本土	200 人	200 人	0 人	＋ 200人	皆増	0.6%
香港	7,500 人	7,500 人	0 人	＋ 7,500人	皆増	22.9%
アメリカ	800 人	800 人	0 人	＋ 800人	皆増	2.4%
タイ	100 人	100 人	0 人	＋ 100人	皆増	0.3%
シンガポール	200 人	200 人	0 人	＋ 200人	皆増	0.6%
その他	1,300 人	1,300 人	0 人	＋ 1,300人	皆増	4.0%
合計	32,800 人	32,800 人	0 人	＋ 32,800人	皆増	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員などを含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	10,400 人	10,400 人	皆増	31.7%	0 人	0 人	－	0.0%
韓国	12,300 人	12,300 人	皆増	37.5%	0 人	0 人	－	0.0%
中国本土	200 人	200 人	皆増	0.6%	0 人	0 人	－	0.0%
香港	7,500 人	7,500 人	皆増	22.9%	0 人	0 人	－	0.0%
アメリカ	800 人	800 人	皆増	2.4%	0 人	0 人	－	0.0%
タイ	100 人	100 人	皆増	0.3%	0 人	0 人	－	0.0%
シンガポール	200 人	200 人	皆増	0.6%	0 人	0 人	－	0.0%
その他	1,300 人	1,300 人	皆増	4.0%	0 人	0 人	－	0.0%
合計	32,800 人	32,800 人	皆増	100.0%	0 人	0 人	－	0.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、主要方面で前年同月比の増加率が最も大きかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことに加え、年末年始における旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
1月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が再開されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き感染状況を注視していく必要がある。

関西

12月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことに加え、年末年始での旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
1月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が再開されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き感染状況を注視していく必要がある。

福岡

12月は、主要方面別で前年同月比の増加率が最も小さかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続されたことに加え、年末年始における旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
1月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が再開されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き感染状況を注視していく必要がある。

名古屋

12月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続されたことに加え、年末年始での旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
1月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が再開されていることなどから、好調に推移することが期待されるものの、引き続き感染状況を注視していく必要がある。

台湾

12月は、日本における水際対策の緩和を受け、「台湾―那覇」路線の運航再開による旅行需要の取込がなされたことなどから、前月と比べて大幅に客数が増加した。
1月は、「台北―那覇」路線において追加で運行再開がなされていることから、更なる旅行需要の回復が期待されるものの、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

12月は、「仁川―那覇」路線での運行が再開されたことにより、令和4年8月以来の客数を計上した。
1月は、更なる旅行需要の回復が期待されるものの、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

12月は、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていることなどから引き続きゼロとなった。
1月は、中国におけるゼロコロナ政策が解除されたものの、中国本土から沖縄への航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

12月は、「香港―那覇」路線の運航再開による、旅行需要の取込がなされたことなどから、前月と比べて客数が増加した。
1月は、更なる旅行需要の回復が期待されるものの、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していること、中国におけるゼロコロナ政策解除の影響が懸念されることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL　098-866-2763

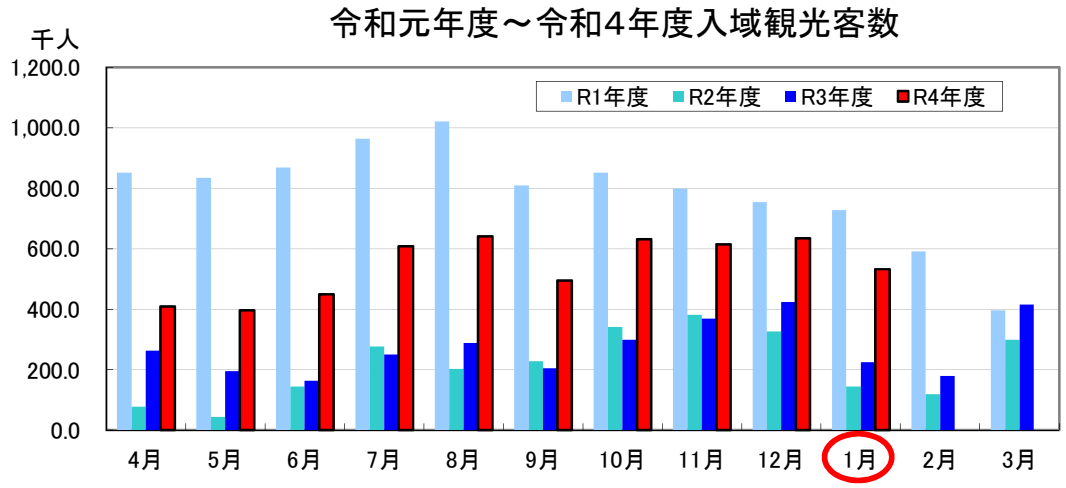
令和5年（2023）1月
入域観光客数概況

53万2,200人
対前年（R4）同月比　+30万7,600人、+137.0%
～　対前年同月比で増加数・増加率ともに過去最大　～
※（R2）同月比　△19万5,600人、△26.9%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）　※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	R1年度
国内客	487,400　人	224,600　人	＋　262,800人	＋　117.0%	91.6%	534,300　人
外国客	44,800　人	0　人	＋　44,800人	皆増	8.4%	193,500　人
合計	532,200　人	224,600　人	＋　307,600人	＋　137.0%	100.0%	727,800　人



国内客　入域状況

1月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続されたこと、航空路線における年末年始期間等の増便、修学旅行が一定程度回復していること、サッカーキャンプが開幕されたことなどの影響から前年同月を上回った。また、コロナ禍前の令和元年同月比で9割を超える水準となっている。
2月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続されていること、またプロ野球キャンプ見学などの各種イベントが開催されていることから、さらなる旅行需要の高まりが期待される。

外国客　入域状況

1月は、「台北―那覇」、「香港―那覇」、「仁川―那覇」路線での運行が継続したことなどにより、外国客数は前月比で12,000人の増、率にして36.6%の増加となるなど好調に推移した。
2月は、「台北―那覇」「香港―那覇」「仁川―那覇」路線での運行が継続していることに加えて「台北―石垣」路線でチャーター便の運航がなされるなど、引き続き外国客数回復への後押しが期待される。

国内客　地域別入域状況

※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	R1年度
東京方面	235,700 人	109,900 人	＋ 125,800人	＋ 114.5%	48.4%	259,400 人
関西方面	100,100 人	48,000 人	＋ 52,100人	＋ 108.5%	20.5%	104,700 人
福岡方面	61,900 人	30,400 人	＋ 31,500人	＋ 103.6%	12.7%	70,600 人
名古屋	46,100 人	19,400 人	＋ 26,700人	＋ 137.6%	9.5%	46,500 人
その他	43,600 人	16,900 人	＋ 26,700人	＋ 158.0%	8.9%	53,100 人
合計	487,400 人	224,600 人	＋ 262,800人	＋ 117.0%	100.0%	534,300 人

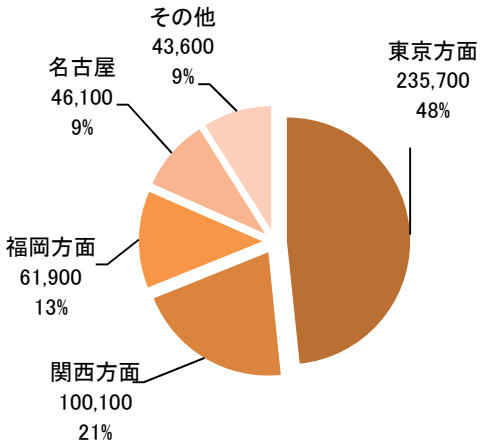
※国内海路客1,500人を含む

外国客　国籍別入域状況

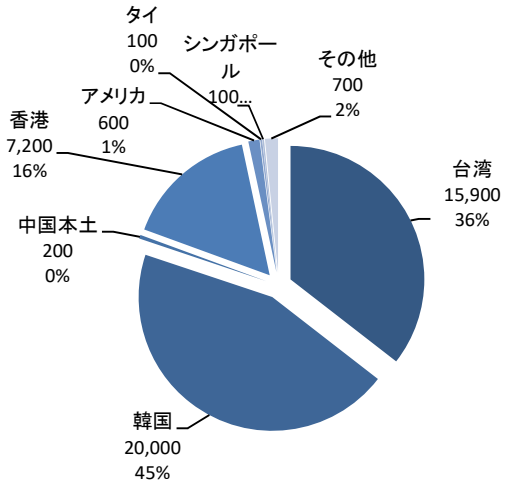
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	15,900 人	15,900 人	0 人	＋ 15,900人	皆増	35.5%
韓国	20,000 人	20,000 人	0 人	＋ 20,000人	皆増	44.6%
中国本土	200 人	200 人	0 人	＋ 200人	皆増	0.4%
香港	7,200 人	7,200 人	0 人	＋ 7,200人	皆増	16.1%
アメリカ	600 人	600 人	0 人	＋ 600人	皆増	1.3%
タイ	100 人	100 人	0 人	＋ 100人	皆増	0.2%
シンガポール	100 人	100 人	0 人	＋ 100人	皆増	0.2%
その他	700 人	700 人	0 人	＋ 700人	皆増	1.6%
合計	44,800 人	44,800 人	0 人	＋ 44,800人	皆増	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員などを含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	15,900 人	15,900 人	皆増	35.5%	0 人	0 人	－	0.0%
韓国	20,000 人	20,000 人	皆増	44.6%	0 人	0 人	－	0.0%
中国本土	200 人	200 人	皆増	0.4%	0 人	0 人	－	0.0%
香港	7,200 人	7,200 人	皆増	16.1%	0 人	0 人	－	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	皆増	1.3%	0 人	0 人	－	0.0%
タイ	100 人	100 人	皆増	0.2%	0 人	0 人	－	0.0%
シンガポール	100 人	100 人	皆増	0.2%	0 人	0 人	－	0.0%
その他	700 人	700 人	皆増	1.6%	0 人	0 人	－	0.0%
合計	44,800 人	44,800 人	皆増	100.0%	0 人	0 人	－	0.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことに加え、年末年始における旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
2月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待される。

関西

1月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことに加え、年末年始における旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
2月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待される。

福岡

1月は、主要方面別で前年同月比の増加率が最も小さかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことに加え、年末年始における旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
2月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待される。

名古屋

1月は、主要方面で前年同月比の増加率が最も大きかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続されたことに加え、年末年始での旅行需要の取込がなされたことなどから、前年同月を上回った。
2月は、行動制限がない状況が継続していることや全国旅行支援の実施が継続されていることなどから、好調に推移することが期待される。

台湾

1月は、日本における水際対策の緩和を受け、「台湾―那覇」路線の運航継続による旅行需要の取込がなされたことなどから、前月と比べて客数が大幅に増加した。
2月は、「台北―那覇」路線での運航がなされていることに加え「台北－石垣」路線でチャーター便が運航されたことなどから、引き続き旅行需要の高まりが期待されるものの、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

1月は、日本における水際対策の緩和を受け、「仁川―那覇」路線での運航が継続されたことにより、前月と比べて客数が大幅に増加した。
2月は、引き続き旅行需要の回復が期待されるものの、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

1月は、中国におけるゼロコロナ政策が解除されたものの、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていることなどから引き続きゼロとなった。
2月は、中国本土から沖縄への航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続しているが、国において中国からの入国者に対する水際対策の緩和が検討されていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

1月は、日本における水際措置の一部見直しにより、「香港－那覇」路線での便数が制限されていることなどが影響して前月と比べて客数が減少した。
2月は、日本政府の水際措置の一部見直しにより、「香港－那覇」路線での便数が制限されていること、また、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL　098-866-2763

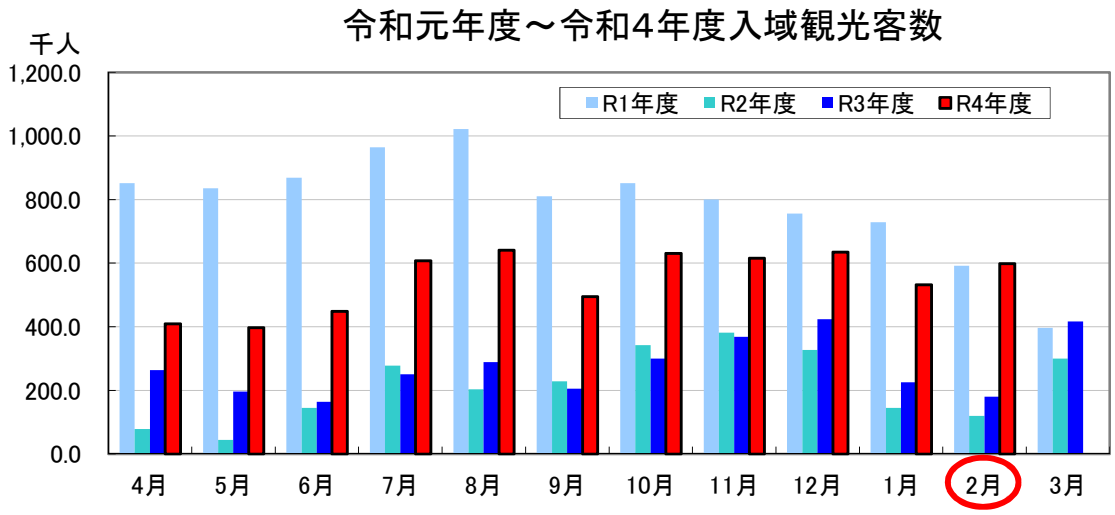
令和5年（2023）2月
入域観光客数概況

59万7,900人
対前年（R4）同月比　+41万8,700人、+233.6%
～対前年同月比での増加数は全ての月において過去最大～
～2月の国内客数としては過去最多～
※（H30年度）同月比　▲174,300人、▲22.6%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）　※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	H30年度
国内客	554,500　人	179,200　人	＋　375,300人	＋　209.4%	92.7%	532,100　人
外国客	43,400　人	0　人	＋　43,400人	皆増	7.3%	240,100　人
合計	597,900　人	179,200　人	＋　418,700人	＋　233.6%	100.0%	772,200　人



国内客　入域状況

2月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続されたこと、修学旅行が一定程度回復していること、サッカーキャンプに続きプロ野球キャンプが実施されたことなどの影響から前年同月を上回った。また、2月の国内客数としては、コロナ前の水準を上回り過去最多となった。
3月は、航空各社における旅行需要を反映した運航計画や春休み期間の増便、ホエールウォッチングやプロ野球のオープン戦の開催、また、全国旅行支援が継続されていることなどから、引き続き好調に推移すると見込まれる。

外国客　入域状況

2月は、「台北―那覇」「香港―那覇」「仁川―那覇」路線での運航継続により、外国客数は堅調に推移した。
3月は、「台北―那覇」「香港―那覇」「仁川―那覇」路線での運航に加え、タイ（バンコク）から那覇へ初のチャーター便が運航されたこと、また国際クルーズの那覇港・石垣港への寄港が再開したことから、順次回復が見込まれる。

国内客　地域別入域状況

※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	H30年度
東京方面	268,400 人	92,900 人	＋ 175,500人	＋ 188.9%	48.4%	253,800 人
関西方面	118,800 人	35,800 人	＋ 83,000人	＋ 231.8%	21.4%	101,300 人
福岡方面	68,600 人	25,000 人	＋ 43,600人	＋ 174.4%	12.4%	71,100 人
名古屋	51,300 人	15,700 人	＋ 35,600人	＋ 226.8%	9.3%	48,700 人
その他	47,400 人	9,800 人	＋ 37,600人	＋ 383.7%	8.5%	57,200 人
合計	554,500 人	179,200 人	＋ 375,300人	＋ 209.4%	100.0%	532,100 人

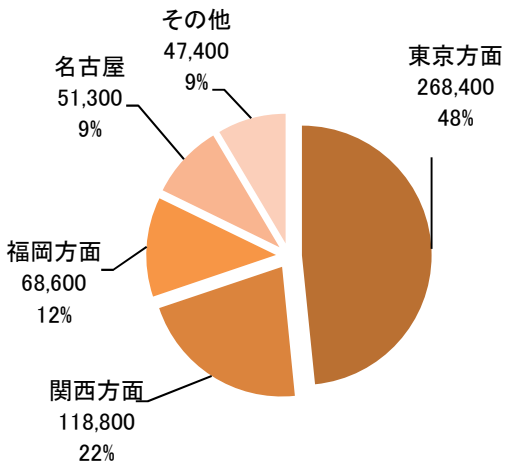
※国内海路客1,500人を含む

外国客　国籍別入域状況

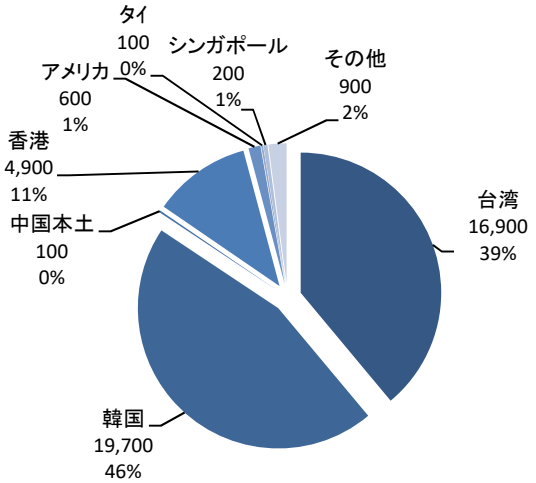
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	16,900 人	16,900 人	0 人	＋ 16,900人	皆増	38.9%
韓国	19,700 人	19,700 人	0 人	＋ 19,700人	皆増	45.4%
中国本土	100 人	100 人	0 人	＋ 100人	皆増	0.2%
香港	4,900 人	4,900 人	0 人	＋ 4,900人	皆増	11.3%
アメリカ	600 人	600 人	0 人	＋ 600人	皆増	1.4%
タイ	100 人	100 人	0 人	＋ 100人	皆増	0.2%
シンガポール	200 人	200 人	0 人	＋ 200人	皆増	0.5%
その他	900 人	900 人	0 人	＋ 900人	皆増	2.1%
合計	43,400 人	43,400 人	0 人	＋ 43,400人	皆増	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員などを含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	16,900 人	16,900 人	皆増	38.9%	0 人	0 人	―	0.0%
韓国	19,700 人	19,700 人	皆増	45.4%	0 人	0 人	―	0.0%
中国本土	100 人	100 人	皆増	0.2%	0 人	0 人	―	0.0%
香港	4,900 人	4,900 人	皆増	11.3%	0 人	0 人	―	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	皆増	1.4%	0 人	0 人	―	0.0%
タイ	100 人	100 人	皆増	0.2%	0 人	0 人	―	0.0%
シンガポール	200 人	200 人	皆増	0.5%	0 人	0 人	―	0.0%
その他	900 人	900 人	皆増	2.1%	0 人	0 人	―	0.0%
合計	43,400 人	43,400 人	皆増	100.0%	0 人	0 人	―	0.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことなどから、前年同月を上回った。さらにコロナ前の水準を上回った。

3月は、国によるマスク着用の考え方の見直しなど、ウイズコロナに向けた取組が加速していることや全国旅行支援が継続されていることなどから、引き続き好調に推移すると見込まれる。

関西

2月は主要方面別で前年同月比の増加率が最も大きかった。、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことから、前年同月を上回った。さらにコロナ前の水準を上回った。

3月は、国によるマスク着用の考え方の見直しなど、ウイズコロナに向けた取組が加速していることや全国旅行支援が継続されていることなどから、引き続き好調に推移すると見込まれる。

福岡

2月は、主要方面別で前年同月比の増加率が最も小さかった。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことから、前年同月を上回った。

3月は、国によるマスク着用の考え方の見直しなど、ウイズコロナに向けた取組が加速していることや全国旅行支援が継続されていることなどから、引き続き好調に推移すると見込まれる。

名古屋

2月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことから、前年同月を上回った。さらにコロナ前の水準を上回った。

3月は、国によるマスク着用の考え方の見直しなど、ウイズコロナに向けた取組が加速していることや全国旅行支援が継続されていることなどから、引き続き好調に推移すると見込まれる。

台湾

2月は、「台湾―那覇」路線の運航が継続されたことや、「台湾－石垣」路線でのチャーター便運航などにより、堅調に推移した。

3月は、「台北―那覇」路線での運航がなされていることに加え、3年ぶりに国際クルーズ船が再開し、石垣・那覇へ寄港したことなどから、順次回復が期待されるものの、他の航空路線での運休が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

2月は、「仁川―那覇」路線での運航が継続されたことなどから、堅調に推移した。

3月は、引き続き旅行需要の回復が期待されるものの、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

2月は、中国におけるゼロコロナ政策が解除されたものの、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）－那覇の7路線が全て運休になっていることなどから引き続きゼロとなった。

3月は、中国本土から沖縄への航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続しているが、国において中国からの入国者に対する水際対策の緩和がなされていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

2月は、日本における水際措置により、「香港－那覇」路線での便数が制限されたことから前月と比べて客数が減少した。

3月は、日本政府の水際措置による便数制限が解除されたことから、順次回復が期待されるものの、他の航空路線での運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　下里（シモザト）　TEL　098-866-2763

令和５年（2023）３月
入域観光客数概況

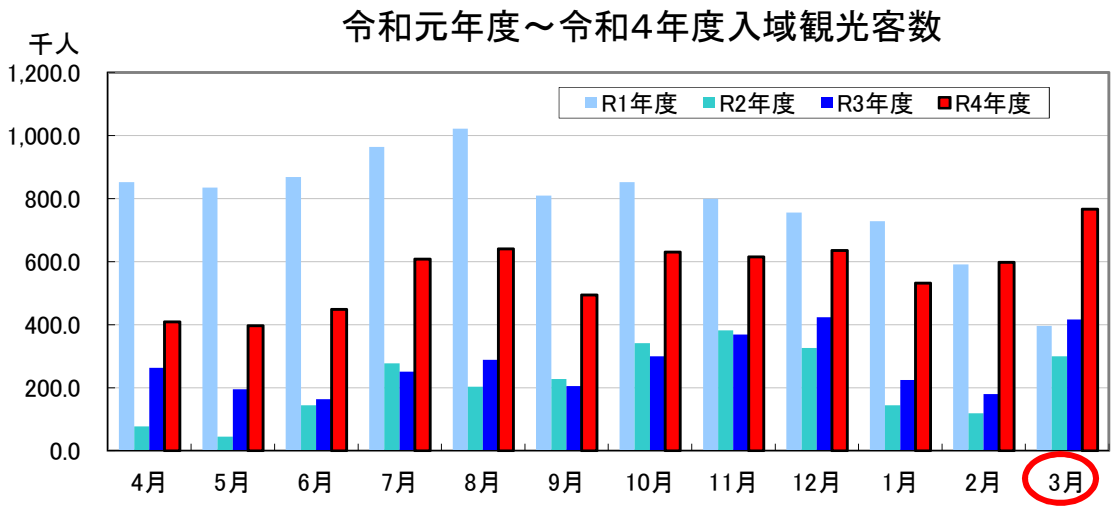
76万6,200人
対前年（R4）同月比　+35万500人、+84.3%
～対前年同月比での増加率は過去最大～
※（H30年度）同月比　▲117,800人、▲13.3%

入域状況

入域観光客数（令和3年度との比較）　※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	H30年度
国内客	702,000　人	415,700　人	＋　286,300人	＋　68.9%	91.6%	657,400　人
外国客	64,200　人	0　人	＋　64,200人	皆増	8.4%	226,600　人
合計	766,200　人	415,700　人	＋　350,500人	＋　84.3%	100.0%	884,000　人

※外国客には、海路における乗務員等4,700人を含む。



国内客　入域状況

３月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことに加え、国によるマスク着用の考え方の見直しなど、ウイズコロナに向けた取組が加速していること、春休みの旅行需要に対する航空会社の臨時便・増便があったことなどから、前年同月比で286,300人の増、率にして68.9%の増加となった。
４月は、4年ぶりの開催となる琉球海炎祭、宮古島トライアスロン大会などの開催や、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、4月以降の全国旅行支援の継続が決まったこと等から、引き続き、好調に推移すると見込まれる。

外国客　入域状況

３月は、航空会社による「台北―那覇」「仁川―那覇」路線の増便等があったことや、3年ぶりとなる国際クルーズの那覇港・石垣港への寄港が再開したことなどから、外国客数は堅調に推移した。
４月は、一部航空路線の運休は継続しているものの、4年ぶりとなるクイーンエリザベスの寄港や清明節、イースター祭などの旅行需要により、順次回復が見込まれる。

国内客　地域別入域状況

※参考

区分	R4年度	R3年度	増減数	増減率	構成比	H30年度
東京方面	335,000 人	204,000 人	＋ 131,000人	＋ 64.2%	47.7%	311,800 人
関西方面	156,500 人	91,700 人	＋ 64,800人	＋ 70.7%	22.3%	130,800 人
福岡方面	86,900 人	54,200 人	＋ 32,700人	＋ 60.3%	12.4%	84,300 人
名古屋	66,100 人	41,500 人	＋ 24,600人	＋ 59.3%	9.4%	59,500 人
その他	57,500 人	24,300 人	＋ 33,200人	＋ 136.6%	8.2%	71,000 人
合計	702,000 人	415,700 人	＋ 286,300人	＋ 68.9%	100.0%	657,400 人

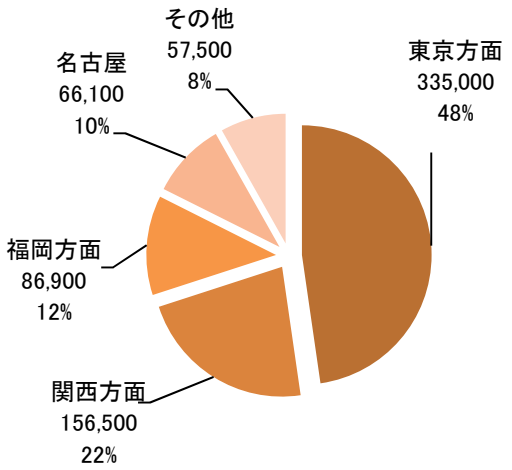
※国内海路客2,200人含む。

外国客　国籍別入域状況

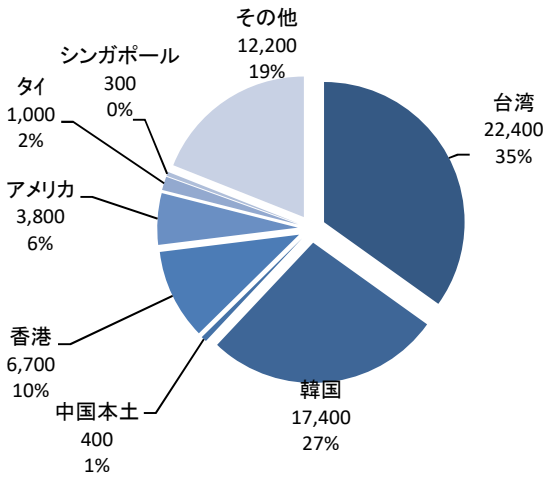
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R4年度（乗務員等含む）	R4年度（乗務員等除く）	R3年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	22,400 人	22,400 人	0 人	＋ 22,400人	皆増	34.9%
韓国	17,400 人	17,400 人	0 人	＋ 17,400人	皆増	27.1%
中国本土	400 人	400 人	0 人	＋ 400人	皆増	0.6%
香港	6,700 人	6,700 人	0 人	＋ 6,700人	皆増	10.4%
アメリカ	3,800 人	3,800 人	0 人	＋ 3,800人	皆増	5.9%
タイ	1,000 人	1,000 人	0 人	＋ 1,000人	皆増	1.6%
シンガポール	300 人	300 人	0 人	＋ 300人	皆増	0.5%
その他	12,200 人	7,500 人	0 人	＋ 12,200人	皆増	19.0%
合計	64,200 人	59,500 人	0 人	＋ 64,200人	皆増	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員などを含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	22,200 人	22,200 人	皆増	43.4%	200 人	200 人	皆増	1.5%
韓国	17,400 人	17,400 人	皆増	34.1%	0 人	0 人	―	0.0%
中国本土	400 人	400 人	皆増	0.8%	0 人	0 人	―	0.0%
香港	6,700 人	6,700 人	皆増	13.1%	0 人	0 人	―	0.0%
アメリカ	1,300 人	1,300 人	皆増	2.5%	2,500 人	2,500 人	皆増	19.1%
タイ	1,000 人	1,000 人	皆増	2.0%	0 人	0 人	―	0.0%
シンガポール	300 人	300 人	皆増	0.6%	0 人	0 人	―	0.0%
その他	1,800 人	1,800 人	皆増	3.5%	10,400 人	5,700 人	皆増	79.4%
合計	51,100 人	51,100 人	皆増	100.0%	13,100 人	8,400 人	皆増	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したこと、春休みの旅行需要を見込んだ航空会社による増便等があったことなどから、前年同月を上回った。
4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、4月以降の全国旅行支援の継続が決まったこと等から、好調に推移すると見込まれる。

関西

3月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したこと、春休みの旅行需要を見込んだ航空会社による増便等があったことなどから、前年同月を上回っており、主要方面別で前年同月比の増加率が最も大きかった。
4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、4月以降の全国旅行支援の継続が決まったこと等から、好調に推移すると見込まれる。

福岡

3月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことなどから、前年同月を上回った。
4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、4月以降の全国旅行支援の継続が決まったこと等から、好調に推移すると見込まれる。

名古屋

3月は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したこと、春休みの旅行需要を見込んだ航空会社による増便等があったことなどから、前年同月を上回った。
4月は、ゴールデンウィークによる旅行需要の高まりに加え、4月以降の全国旅行支援の継続が決まったこと等から、好調に推移すると見込まれる。

台湾

3月は、「台北―那覇」路線の拡充があったことや3年ぶりに国際クルーズの寄港が再開したことから、前月と比べて客数が大幅に増加した。
4月は、4年ぶりに開催される琉球海炎祭などによる旅行需要の高まりやクルーズ船の寄港予定等から、今後の動向を注視していく必要がある。

韓国

3月は、韓国では新学期開始でオフシーズンであったものの、「ソウル―那覇」路線の拡充があったことから、堅調に推移した。
4月は、引き続き旅行需要の回復が期待されるものの、他の航空路線での運休が継続していることから、今後の動向を注視していく必要がある。

中国本土

3月は、日本政府による水際措置が緩和されたものの、航空路線での運休が継続していることなどから、客数の回復に至っていない。
4月は、航空路線運休の継続により直接来沖することが難しいものの、国において中国からの入国者に対する水際対策の緩和がなされていることから、今後の動向を注視していく必要がある。

香港

3月は、日本政府による水際措置の影響で落ち込んだ2月の客数を上回ったものの、1月時点の水準にまで回復していない。
4月は、清明節やイースターの連休で旅行需要が高まることが期待されることから、今後の動向を注視していく必要がある。

担当：沖縄県文化観光スポーツ部　観光政策課　與儀（ヨギ）　TEL　098-866-2763